３.長岡京跡右京第1027次（7ANSMD-10地区）・松田遺跡発掘調査報告

１．はじめに

今回の調査は、西日本高速道路株式会社関西支社京都工事事務所の依頼を受けて、京都縦貫自動車道整備事業に伴い実施した。

調査対象地は、乙訓郡大山崎町字円明寺小字松田地内にあり、大山崎中学校グランドの西側に位置している。この地点は長岡京条坊復原図によれば、旧条坊では右京九条二坊十四町にあたるが、新条坊では長岡京域外となる。また、京都府・大山崎町遺跡地図によれば、縄文時代から中世にかけての遺跡である松田遺跡の南西部にあたる（第１図）。

今回の調査対象地周辺では数多くの調査が行われている（第２図）。大山崎中学校が京都縦貫自動車道建設に伴い、東側に移転することになり、平成20年度に大山崎町教育委員会により新校舎建設予定地の発掘調査が実施された（長岡京跡右京第933次調査）。この調査で縄文時代から弥生時代の流路跡、土坑、古墳時代から飛鳥時代の竪穴式住居跡10棟、掘立柱建物跡４棟、流路、溝、土坑、中世から近世の溝、掘立柱建物跡３棟などが検出されている。(注１)

平成22年度に京都縦貫自動車道整備事業に伴い右京第997次調査が行われ、中世の掘立柱建物跡４棟、井戸２基、柵列、溝などが検出されている。(注２) また、右京第997次調査地の東側で、主要地方道大山崎大枝線新設改良工事に伴い右京第1008次調査が行われ、中世の柱穴、井戸、溝、古墳時代後期の竪穴式住居跡１棟が検出されている。

平成21年度には大山崎中学校の南側で長岡京跡右京第971･974次調査が行われ、古墳時代中期･後期の竪穴式住居跡３棟、土坑２基が検出されている。

今回の調査対象地は、右京第997次調査地に接した南部および南東部分である。本報告で使用した国土座標は、日本測地系（第Ⅵ座標系）である。土層の色調は農林水産技術会議監修の『新版標準土色帖』を使用した。

現地調査および整理作業にあたっては、多くの方々の参加を得た。また、京都府教育委員会、大山崎町教育委員会、京都府乙訓土木事務所等の関係機関、大山崎中学校、地元自治会、近隣住民の皆様をはじめ多くの方々にご指導、ご協力をいただいた。記して感謝します。なお、調査に係る経費は、全額西日本高速道路株式会社関西支社京都工事事務所が負担した。

〔調査体制等〕

現地調査責任者　調査第２課長　水谷壽克

調 査 担 当 者　調査第２課調査第２係長　岩松　保

同　調査第３係調査員　石尾政信

調　査　場　所　乙訓郡大山崎町字円明寺小字松田

現地調査期間　平成23年８月１日～10月６日

調　査　面　積　350（上場：600）㎡

２．位置と環境

大山崎町は、京都盆地の南西部に位置し、大阪府に接する。丹波地域から流れる桂川と琵琶湖からの宇治川と京都府南部から北流する木津川の三川が大山崎町の南側で合流し、淀川となって大阪湾へと注ぐ。大山崎町の西側には、京都盆地の西側を囲む山地の南西部にあたる西山山地が迫る。山地の裾部には丘陵と段丘が分布し、その東側には桂川とその支流である小泉川によって形成された沖積地が広がる。松田遺跡は小泉川下流にあたり、その沖積地の中にわずかに広がる微高地上に立地する。(注3)

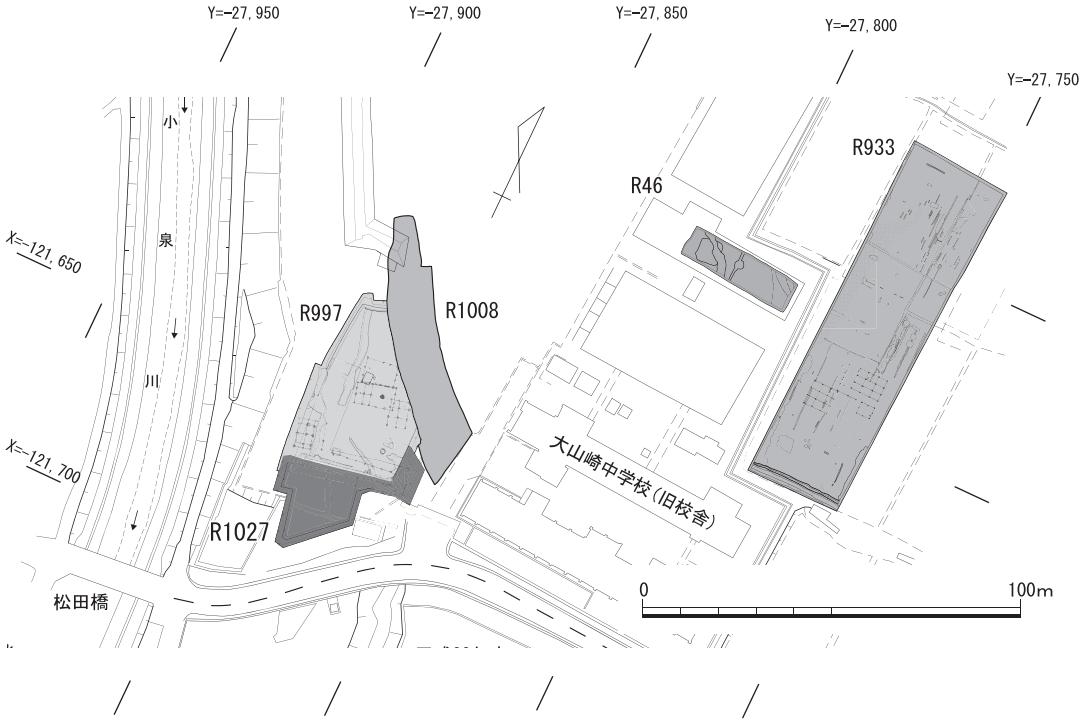
調査地周辺の遺跡を概観すると、小泉川中流の左岸に旧石器の遺物散布地として知られる下海印寺遺跡では、古墳時代の竪穴式住居跡、平安時代の掘立柱建物跡、中世の城館跡などが検出されている。下海印寺遺跡に接して縄文時代中期から晩期の多量の土器や石囲い炉をもつ住居跡、

第１図　調査地及び周辺遺跡位置図（国土地理院　1/25,000　京都西南部）

火葬骨が埋納された土坑などが検出され注目を集めた伊賀寺遺跡がある。伊賀寺遺跡では弥生時代後期の竪穴式住居跡、古墳時代の竪穴式住居跡、長岡京期の遺構・遺物も検出されている。その南東に縄文時代中期の土器が出土し、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である友岡遺跡と、奈良時代前期の鞆岡廃寺がある。小泉川右岸には長岡京期の土馬・ミニチュアカマドが大量に出土した西山田遺跡、サヌカイトのナイフ形石器が出土し、弥生時代中期の土坑が検出された脇山遺跡、中世の掘立柱建物跡・井戸などが検出され、古墳時代から中世の土器と奈良時代の墨書土器が出土している久保川遺跡がある。

松田遺跡の北側には旧石器～中世の複合遺跡である硲（はざま）遺跡があり、その東にある境野１号墳は、最近の調査成果から３段築成で葺き石と円筒埴輪を持ち、古墳時代前期後半（４世紀後半）の前方丸円墳で全長78 ～ 83mの規模と推定されている。境野１号墳の南東に宮脇遺跡があり、近年の調査で古墳周溝が検出され、各時期の遺物が出土する縄文時代～近世の複合遺跡である。宮脇遺跡の北には国指定史跡の恵解山古墳、縄文時代～弥生時代の土器が出土し、弥生時代中期の方形周溝墓が検出された南栗ヶ塚遺跡がある。

松田遺跡の南には東西１km、南北800mの下植野南遺跡があり、弥生時代中期の方形周溝墓群、古墳時代の竪穴式住居跡・掘立柱建物跡群、平安時代初期の掘立柱建物跡が検出され、縄文時代から中世の遺物が出土する大規模な複合遺跡であることが判明している。小泉川の右岸には、古墳時代の竪穴式住居跡や掘立柱建物跡などが検出された算用田遺跡がある。その北に中世の土師器・瓦器・陶磁器が出土する金蔵遺跡がある。府道大枝大山崎線（西国街道）沿いに広がる百々遺跡では、平安時代前期の側溝・掘立柱建物跡・井戸などが検出され、土師器・須恵器・緑釉陶器・



第２図　調査地配置図

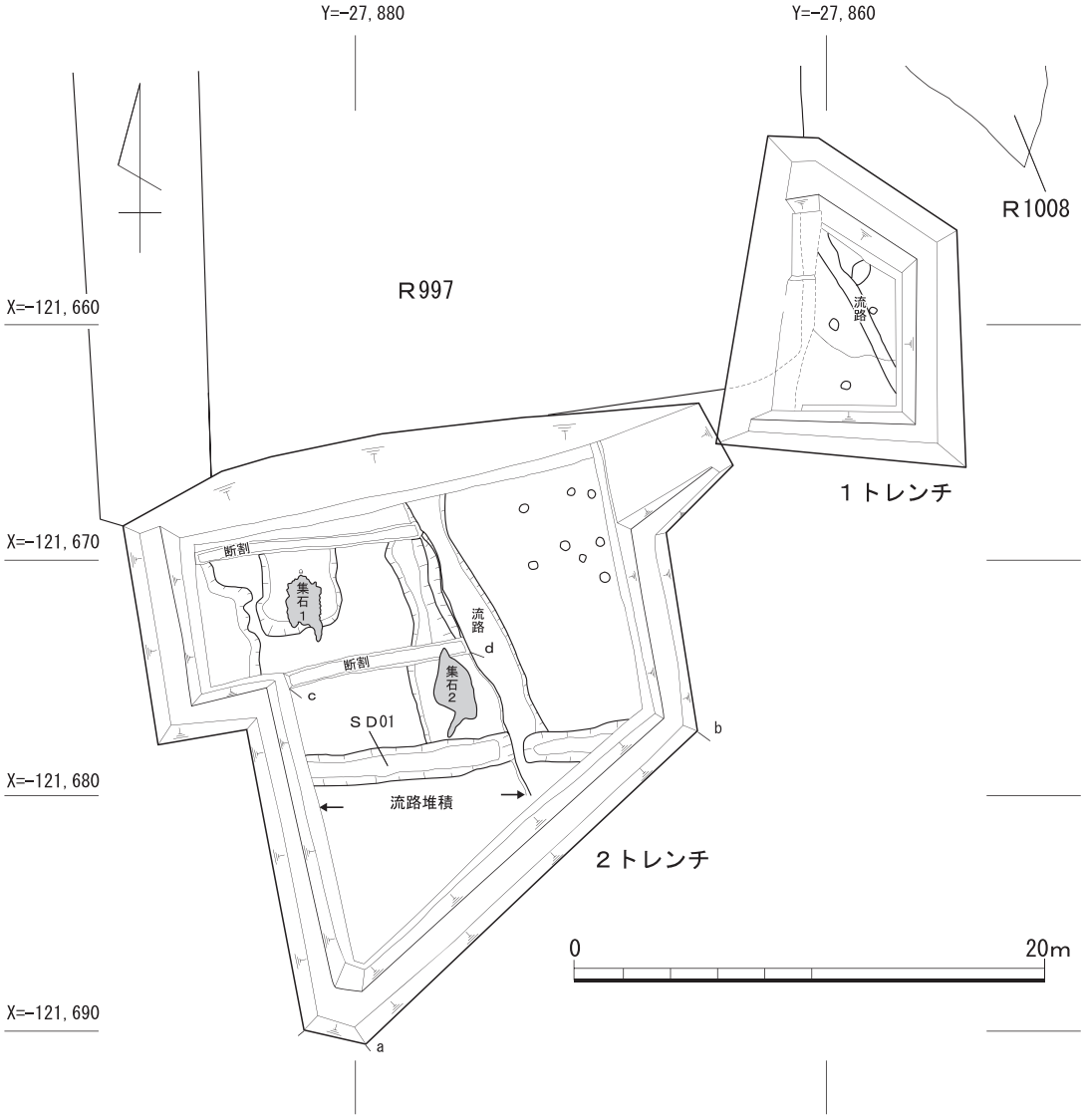
輸入陶器・黒色土器・瓦・輸入銭・木簡・墨書土器などの多彩な遺物が出土している。

３．検出遺構

今回の調査地は右京第997次調査地の南東部と南部に隣接しており、南東部に１トレンチを南部に２トレンチをそれぞれ設定して調査を実施した(第２図)。

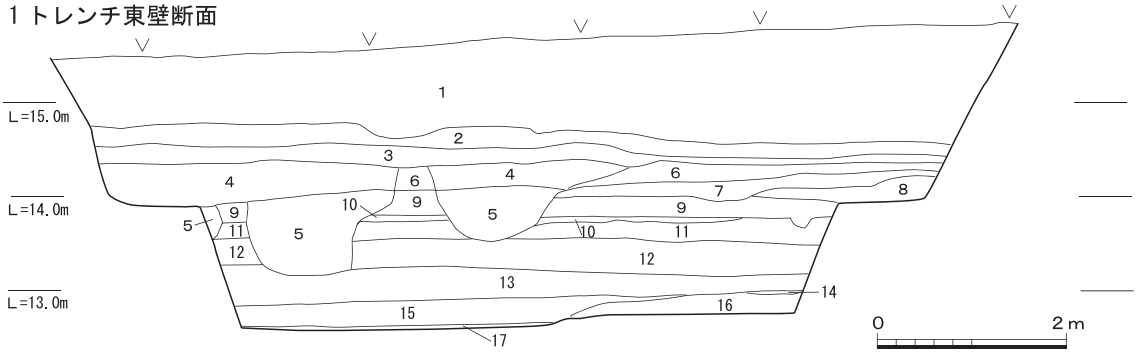
（１）１トレンチ(第３図)

１トレンチでは地表下約2.5mの標高13m付近まで掘り下げ、遺構検出に努めた。断面観察から現代整地層の下に旧耕作土・旧床土、その下に砂礫混じり土・砂質土(第６～９層)が堆積し、一部に小泉川氾濫による砂礫層(第４・５層)が認められ、粘質土(第10～13層)下層に砂層(第15・16層)が堆積していた(第３図)。この第15・16層の砂層の上面で柱穴３基と砂が堆積した浅い流路跡を検出した。柱穴の一つは長岡京跡右京第997次調査で検出された柵列ＳＡ35の延長にあたり、柱穴から瓦器椀片が出土した。



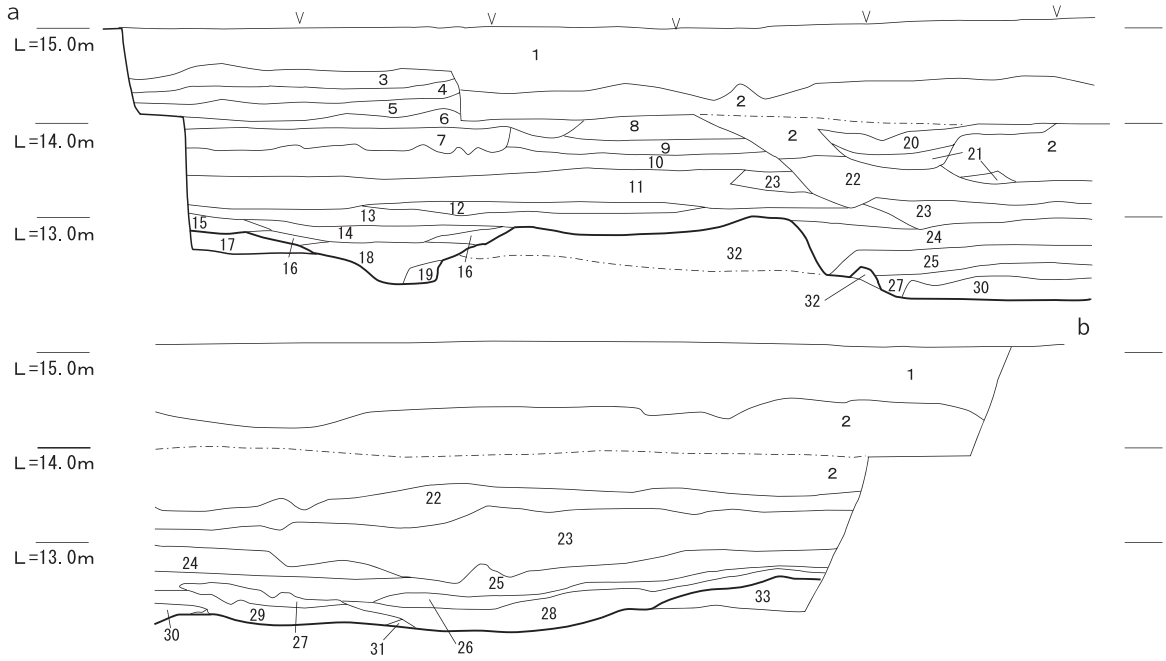
第３図　１・２トレンチ遺構配置図

1トレンチ東壁断面



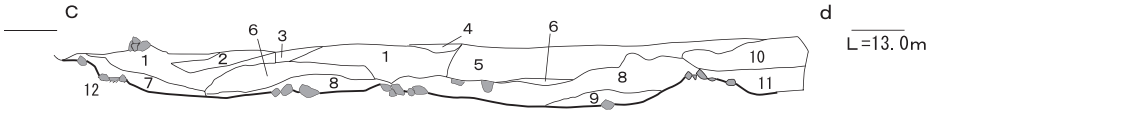
1．盛土（整地層）
2．黄灰色土（2.5Y5/1、旧耕土）
3．明黄褐色土（2.5Y7/6、旧床土）
4．黄褐色砂礫（2.5Y5/1）
5．黄褐色砂礫φ10cm(2.5Y5/4)
6．黄灰色砂礫混入土（2.5Y6/1）
7．黄灰色砂質土（2.5Y6/1、小礫含）
8．黄灰色砂質土（2.5Y6/1）
9．黄灰色砂質土（2.5Y6/1、砂礫含）
10．黄色粘質土（2.5Y7/8）
11．灰色粘質土（7.5Y7/2）
12．灰色粘質土（7.5Y7/1）
13．灰オリーブ色粘質土（7.5Y7/2）
14．暗灰色砂質土（7.5Y6/1）
15．暗灰色砂（10Y5/1）
16．暗灰色砂微砂（10Y6/1）
17．褐色砂礫（7.5Y4/6）

2トレンチ南壁断面



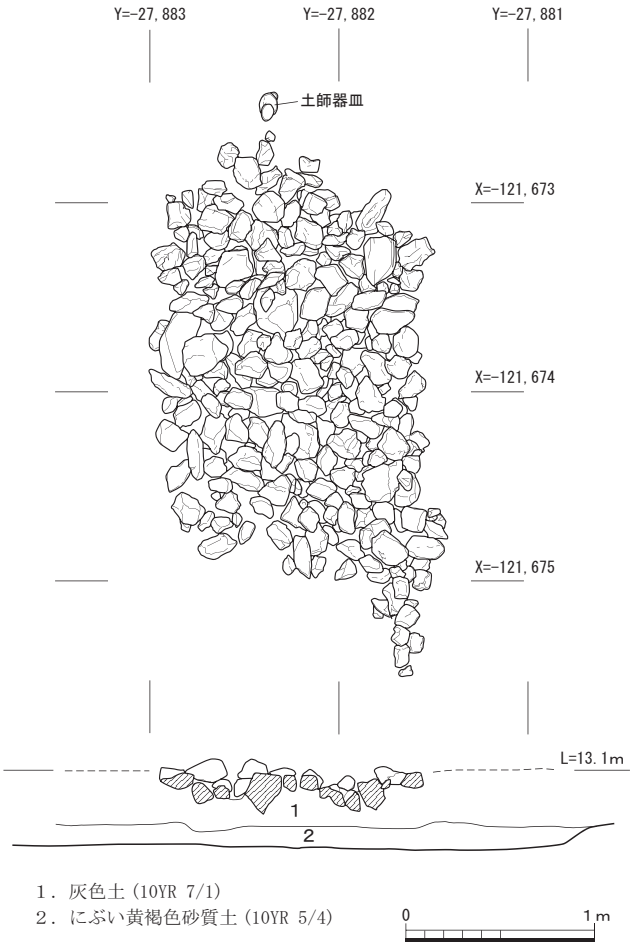
1．撹乱（整地土）
2．明黄褐色砂礫（10YR6/6）
3．褐灰色土（旧耕土）（10YR6/1）
4．にぶい黄橙色土（旧床土）(10YR6/4)
5．灰黄褐色土（10YR6/2）
6．褐灰色土（10YR6/1）
7．にぶい黄橙色土（10YR6/4）
8．　〃　（10YR7/4）
9．にぶい黄橙色粘質土（10YR7/3）
10．　〃　（10YR7/2）
11．にぶい黄橙色粘質土（10YR6/3）
12．灰褐色土（10YR6/2）
13．　〃　（10YR6/3）
14．灰褐色土（10YR5/2）
15．灰黄褐色土（10YR5/2）
16．にぶい黄橙色土（10YR7/2）
17．にぶい黄橙色砂質土（10YR6/5）
18．灰白色土（10YR7/1）
19．にぶい黄橙色砂質土（10YR7/2）
20．明褐色砂層（10YR7/6）
21．にぶい黄橙色砂（10YR7/4）
22．にぶい黄橙色砂礫（10YR6/4）
23．灰白色粘質土（10YR6/3）
24．にぶい黄褐色土（10YR5/3）
25．褐色砂質土（10YR4/6）
26．褐色砂層（10YR4/4）
27．にぶい褐色粗砂（10YR6/1）
28．にぶい黄褐色細砂（10YR7/2）
29．灰白色細砂（10YR7/1）
30．にぶい黄褐色粗砂（10YR7/2）
31．褐色砂（10YR4/3）
32．暗褐色砂礫（10YR3/3）
33．黒褐色砂礫（10YR3/1）

2トレンチ中央部断割断面



1．にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）
2．にぶい黄褐色砂（10YR7/4）
3．にぶい黄褐色土（10YR7/3）
4．にぶい黄褐色砂質土（10YR7/2）
5．暗褐色小砂礫（10YR3/4）
6．にぶい黄褐色細砂（10YR5/3）
7．褐色砂層（10YR4/4）
8．にぶい黄褐色細砂（10YR4/3）
9．灰色微砂（10YR6/3）
10．褐色小砂礫（10YR3/3）
11．褐色砂（10YR3/4）
12．暗褐色砂礫（10YR3/3）

第４図　１・２トレンチ土層断面図



第５図　２トレンチ　集石１実測図

（２）２トレンチ（第４図）

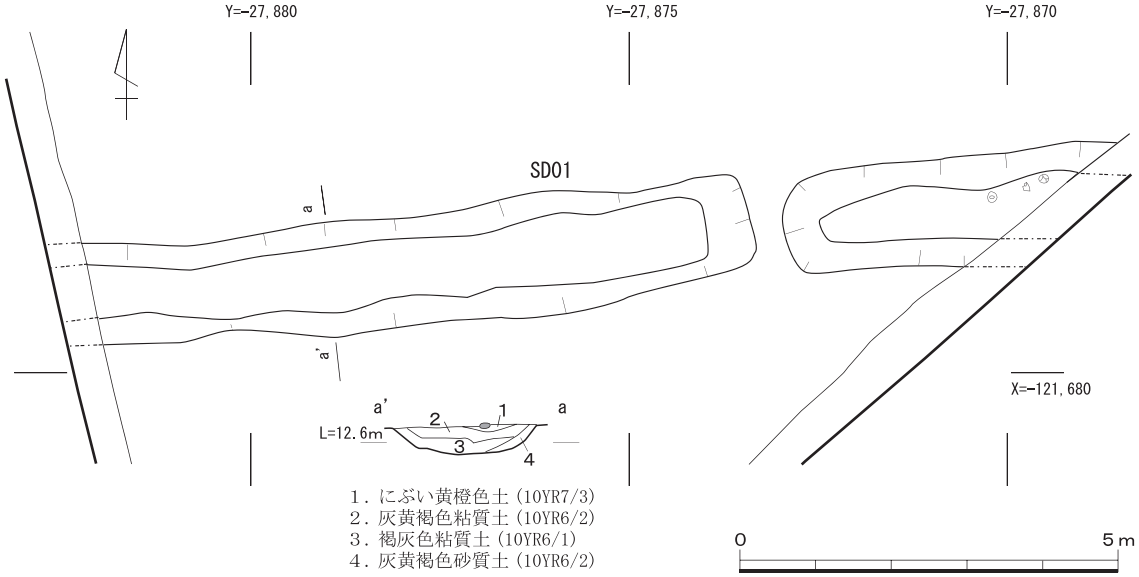
２トレンチは小泉川堤防に向けて道路面が高くなっており、その隣接地が住居として利用されていたため旧表土から約２ｍの盛土層があった。事前に重機を使用して盛土層を除去し、さらに重機により厚さ２ｍ、標高13m付近まで掘り下げ、遺構検出に努めた。北東部と南部では堆積状況が異なる。南部では小泉川の氾濫による砂礫層が１ｍ前後あり、その下に第22～28層粘質土・砂質土・砂が堆積し、この下に黒褐色の砂礫（第33層）が認められた（第４図参照）。

２トレンチ北東部は第32層の暗褐色砂礫層が広がって平坦面となっている。この層に掘り込まれた直径40cm程度の円形柱穴７基と隅丸方形の柱穴１基を検出したが、建物跡に復元できるものではなかった。また、柱穴の底部に石を置いたものもあった。柱穴の一部から瓦器椀の小破片が出土している。また、平坦面の西側には南北方向に流れる幅２ｍ前後のにぶい黄褐色砂質土が堆積した流路跡があり、これより西側は暗褐色砂礫土を抉り込んで砂質土・砂・小砂礫が流路状に堆積する。この堆積層上面で集石１・溝ＳＤ01を検出した。また、北部の中央から北西部には灰色土が堆積し、土師器皿・瓦器椀・瓦質羽釜などが出土した。

北西部では灰色土の中に東西1.4m、南北約２ｍの範囲に石が積み重なっていた（集石１）。中央部でも石の集合した場所（集石２）を検出した。集石２の南で東西方向の素掘り溝（ＳＤ01）を検出した。これより南では遺構を検出していない。以下主な遺構について記述する。

集石１（第５図）　２トレンチ北西部で検出した集石である。東西1.4m、南北約２ｍで一部が飛び出した形状である。石は概ね２段に重なり、最大30cm、平均20cm程度のものが多い。集石の北側に土師器皿が重なり斜めに立った状況で検出された。周囲を慎重に精査したが掘形は確認できなかった。集石の範囲が限定的なので何らかの意図で人為的に集められたものと推定される。集石の周囲が僅かに窪むこと、右京第997次調査で検出された溝ＳＤ86の延長部分にあたるので、周辺の石を集積しただけとも考えられる。周辺から土師器皿・瓦器椀・陶磁器・輸入銭１枚などが出土している。

集石２　トレンチ中央部で検出した集石である。範囲が不定型で、石の重なりが少ない。集石



第６図　２トレンチ　ＳＤ01実測図

１に比べて石はややまばらであった。

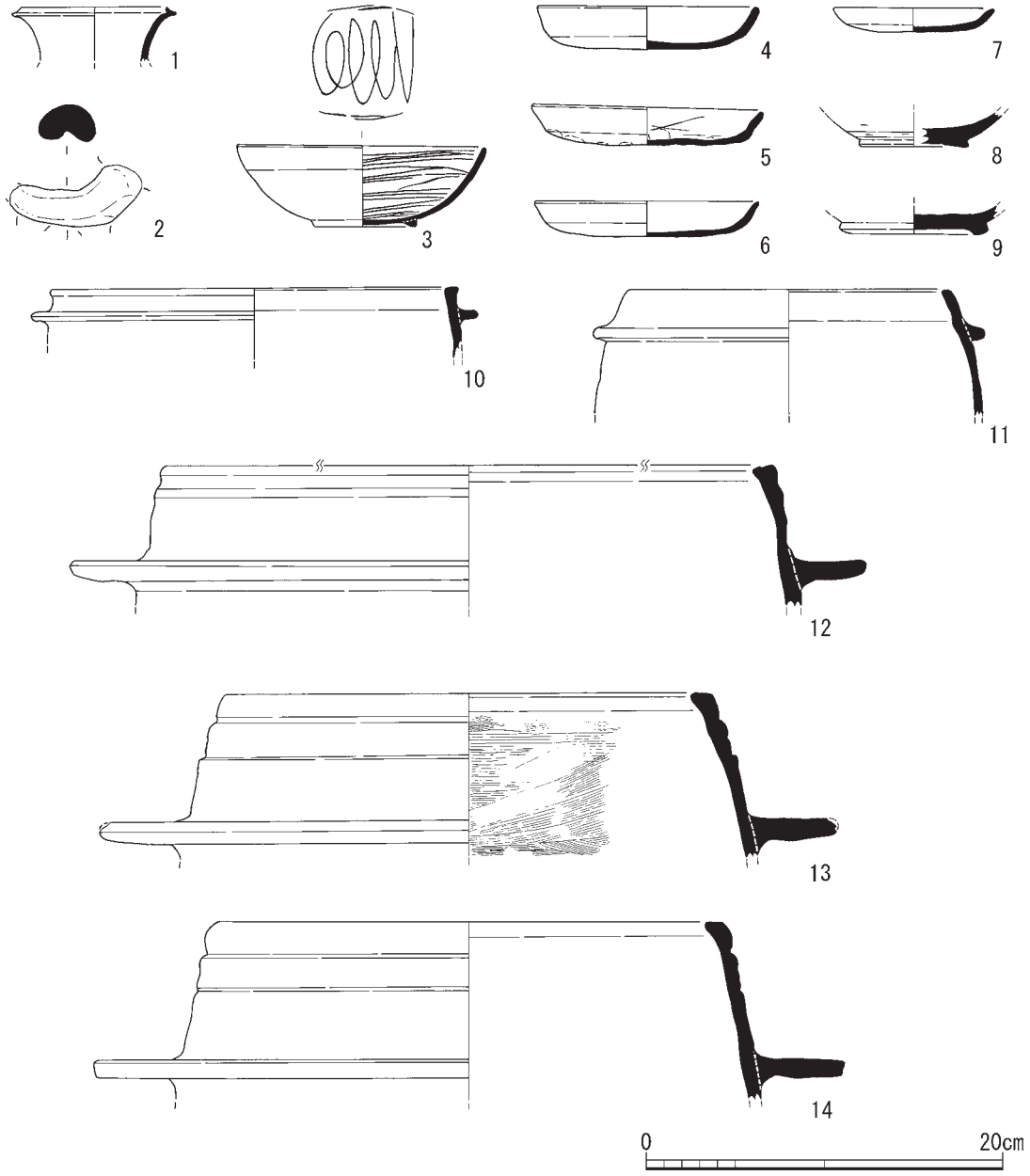
溝ＳＤ01（第６図）　２トレンチ中央で検出した東西方向の素掘り溝である。幅1.3～1.5m、深さ0.3mを測り、東西14mにわたって検出した。東北部のベースである砂礫層の一部を幅約0.4m掘り残し、土橋状の通路を設ける。西側では灰色土・灰色砂質土の下層に砂が堆積していたので流れがあったことがわかる。この通路から東では西側よりやや深く、東方に向かって下がる。ＳＤ01はＥ９°Ｎの振れをもつ。埋土から土師器皿・瓦器椀・瓦質羽釜などと、摩滅した土馬の体部が出土した。

４．出土遺物（第７・８図）

出土遺物は、土師器・瓦器・陶磁器・須恵器・輸入銭などが整理箱に５箱分出土した。

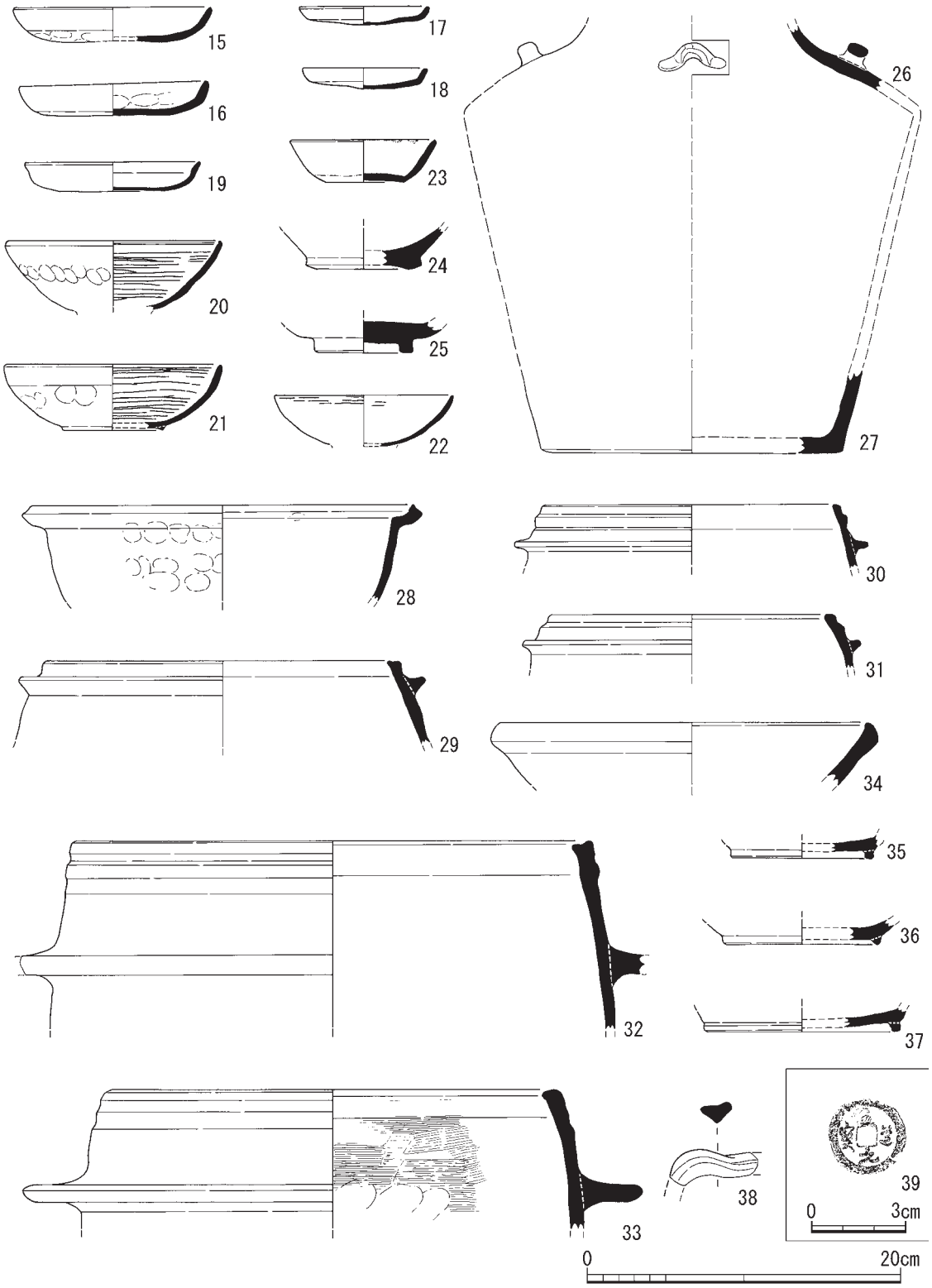
溝ＳＤ01（第７図１～14）　１は須恵器壺の口縁部である。口径８cmを測る。焼成が良好で胎土が密で、内面が灰色を呈し外面に自然釉が掛かる。２は土馬の体部である。表面が磨滅していることから周辺から流入したものであろう。１・２とも８世紀末から９世紀前半までのものであろう。３は瓦器椀である。口径13.6cm、器高4.55cmを測り、底部に断面が逆三角形の高台が付く。口縁部外面に指押さえ痕跡がみられるが暗文がなく、口縁部内面に粗い暗文と内面底部に粗い螺旋状の暗文を施す。焼成が良く胎土が密で色調が暗灰色を呈す。溝の東部から出土した。４は土師器皿である。口径12.1cm、器高2.4cmを測る。口縁部の内外面をヨコナデし、底部外面に工具によるナデが残る。焼成が良好で胎土に石英・長石・雲母、２mm以下の青灰色砂粒が混じり、外面がにぶい黄橙色、内面が褐灰色を呈す。溝の東部から出土した。５は土師器皿である。口径12.75cm、器高2.1cmを測る。口縁部内外面をヨコナデし、底部外面は未調整である。焼成が良好で胎土に石英・長石・雲母を多く含み、外面がにぶい黄褐色、内面が褐灰色を呈す。６は土師器皿である。口径12.4cm、器高2.0cmを測る。焼成が良く胎土に石英・長石を含み、内外面とも

にぶい黄橙色を呈す。７は土師器皿である。口径8.8cm、器高1.35cmを測る。焼成が良く胎土に石英・長石・雲母・青灰色砂粒を含み、内外面ともがにぶい黄橙色を呈す。８は無釉陶器椀の底部である。底部径6.0cmを測り、高台は削り出しである。残存部分にヘラミガキは見られないが緑釉陶器の素地であろう。焼成が良く胎土が密で石英・長石を含み、内外面とも灰色を呈す。９は白磁椀の底部である。底径7.2cmを測る。内面に灰白色の釉薬が掛かり、外面が灰白色を呈す。焼成が良好で胎土は緻密である。10は瓦質の羽釜である。口径22.5cmを測る。垂直ぎみの口縁で端部はほぼ水平で、短い鍔が巡る。焼成が良く胎土に石英・長石・雲母・青灰色砂粒を含み、外面が灰色内面が灰白色を呈す。11は瓦質の羽釜である。内湾する口縁部で端部は丸くおさめる。口縁部はヨコナデで短い鍔が巡る。焼成が良く胎土は密で石英・長石・青灰色砂粒を含み、内面が灰白色、外面が灰色を呈す。12は瓦質の羽釜である。口径34.1cmを測る。わずかに内傾する口



第７図　出土遺物実測図（１）

縁部の外面はヨコナデにより緩やかな凹凸があり、端部が肥厚し頂部を浅く窪ます。焼成が良く胎土に石英・長石・雲母を含み、外面がオリーブ灰色、内面が灰白色を呈す。13は瓦質の羽釜である。口径27.0cmを測る。わずかに内傾する口縁部の内外面をヨコナデし、外面に２段の凹線を巡らし、端部を内側に肥厚させる。口縁部内面に工具による横方向のハケ目が残る。口縁部から



第８図　出土遺物実測図（２）

7cm下に広い鍔を巡らす。焼成が良く胎土に長石・雲母・青灰色砂粒を含み、外面が灰色、内面がにぶい黄橙色を呈し一部に黒褐色の煤が付着する。14は瓦質の羽釜である。口径28.1cmを測る。13とよく似た形状の口縁部を持つ。13のような口縁部内面にハケ目は見られない。胎土がやや密で焼成が良く胎土に長石・雲母・青灰色砂粒を含み、外面が灰色、内面が黄灰色を呈す。

溝ＳＤ01出土の土器は、少量の８世紀末から９世紀前半（１・２）、９世紀（８）、12世紀（９）のものが混じるが、土師器皿・瓦器椀は13世紀後半～14世紀前半のものである。

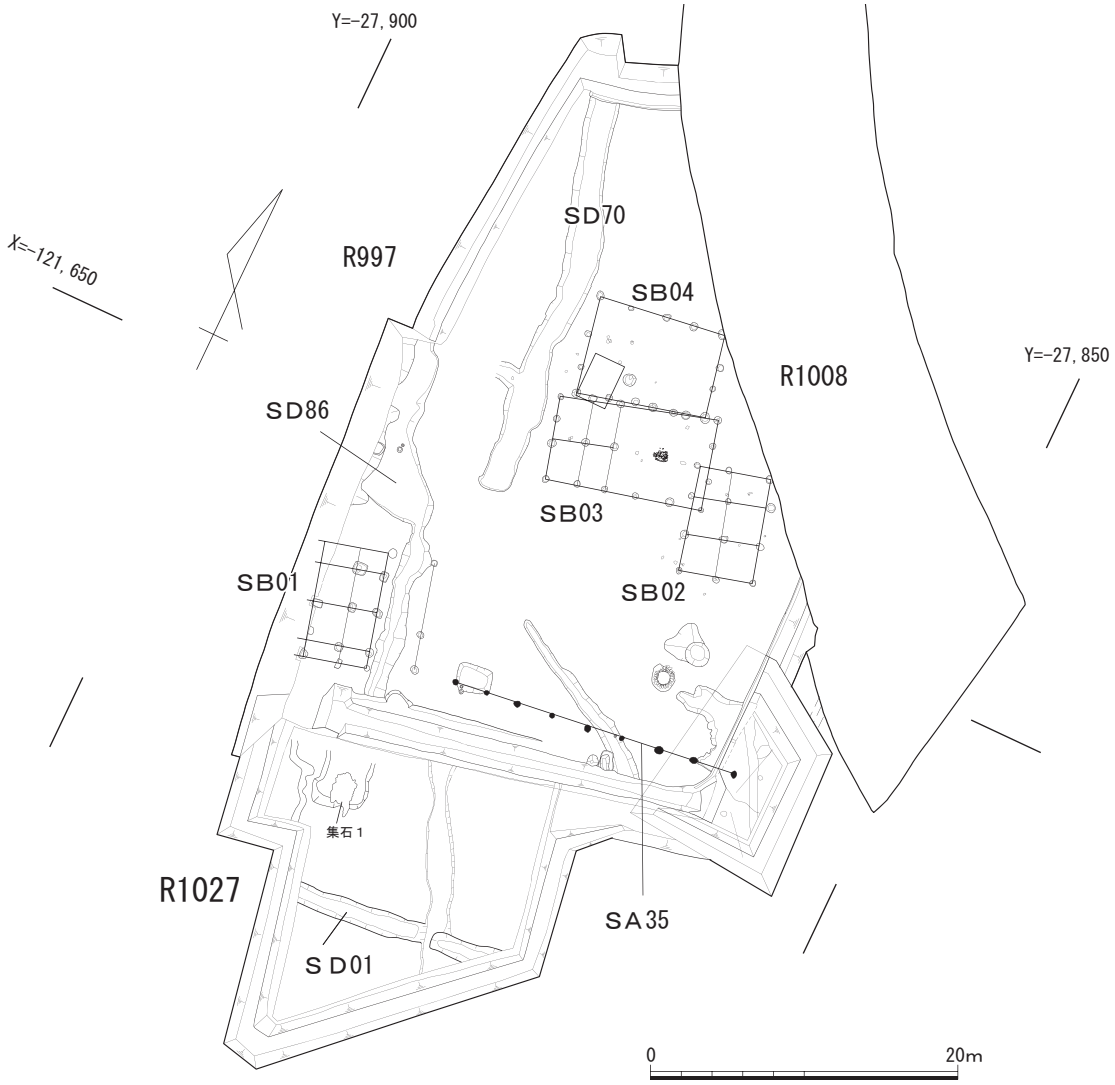
その他の遺物（第８図15～39）　15～18は集石１の北隣で重なって出土した。15は土師器皿である。口径12.4cm、器高2.15cmを測る。口縁部内外面をヨコナデし、口縁部下半から底部をナデる。口縁部外面の下半に指押さえ痕跡が残る。焼成が良く胎土に石英・長石・雲母・茶色の砂粒を含み、内外面ともにぶい橙色を呈す。16は土師器皿である。口径12.0cm、器高2.05cmを測る。口縁部内外面をヨコナデし、口縁部下半から底部をナデる。口縁部内面の下半に指押さえ痕跡が残る。焼成が良く胎土に石英・長石・雲母・茶色の砂粒を含み、内外面ともにぶい橙色を呈す。17は土師器皿である。口径8.0cm、器高1.2cmを測る。口縁部内外面をヨコナデし、底部内外面もナデる。焼成が良く胎土に石英・長石・雲母・茶色の砂粒を含み、内外面ともにぶい橙色を呈す。18は土師器皿である。口径7.8cm、器高1.4cmを測る。焼成が良く胎土に石英・長石・雲母・茶色の砂粒を含み、内外面とも橙色を呈す。19は土師器皿である。口径11.0cm、器高1.9cmを測る。口縁部をヨコナデしわずかに外反する。焼成が良く胎土に赤茶色の砂粒を含み、外面がにぶい橙色、内面が橙色を呈す。集石１周辺の灰色土から出土した。20・22は集石１周辺の灰色土から、21は包含層から出土した。20は瓦器椀である。口径13.5cm、残在高4.4cmを測る。口縁部上半から内面をヨコナデし、口縁部外面下半に指押さえ痕跡が残る。口縁部内面に粗い暗文が見られる。底部外面に逆三角形の高台を貼り付けた痕跡が見られる。胎土は密であるが焼成がやや悪く、外面はオリーブ黒色、内面は黒褐色を呈す。体部外面下半に指押さえ痕跡が残る。口縁部内面に粗い暗文が見られる。底部外面に逆三角形の高台を貼り付ける。胎土は密であるが焼成がやや悪く、内外面ともオリーブ黒色を呈す。21は瓦器椀である。口径13.6cm、器高4.2cmを測る。口縁端部はヨコナデし、体部外面には指押さえ痕跡が残る。内面には暗文がある。底部外面には逆三角形の高台を貼り付ける。22は瓦器椀である。口径11.2cm、残存高3.25cmを測る。口縁部上半から内面をヨコナデし、口縁部外面上端に粗い暗文があり、下半に指押さえ痕跡が残る。口縁部内面に暗文が見られるが焼成が悪く明瞭でない。底部外面に逆三角形の高台を貼り付けた痕跡がある。胎土は密であるが焼成がやや悪く、内外面とも灰色を呈す。23は口禿げの白磁皿である。口径9.1cm、器高2.75cmを測る。口縁端部は露胎で、一部に煤が付着している。底部は露胎である。胎土は緻密で焼成が堅緻、内外面とも灰白色を呈す。集石１の北東部の灰色土から出土した。24・25は集石１周辺の灰色土から出土した。24は白磁椀の底部である。底径6.0cmを測る。胎土は緻密で焼成が堅緻、内面ににぶい黄橙色の釉薬が掛かる。25はいわゆる白磁椀の底部である。底径5.9cmを測る。胎土は緻密で焼成が堅緻、内外面に灰オリーブ色の釉薬がかかる。26は集石１周辺の灰色土から、27は集石１西側の包含層から出土した。26は褐釉陶器四耳壺の肩部と推定

される。胎土は緻密で焼成は堅緻である。外面には黒褐色の釉が掛かり、内面はにぶい黄橙色を呈す。27は褐釉陶器の底部と推定される。底径19.2cmを測る。外面の釉薬がにぶい褐色であるが、内面の色調と胎土がよく似ているので26と同一個体と推測される。28は瓦質の鍋である。口径24.1cmを測る。口縁部を外側に折り曲げ端部を上方に摘み上げる。全体をナデで仕上げるが、体部外面に指押さえ痕跡が残る。胎土が密で焼成も良く、内面がにぶい褐灰色、外面が褐灰色を呈す。集石１周辺の灰色土から出土した。29 ～ 32は集石１東側の灰色土から、33は集石１の周辺から出土した。29は瓦質の羽釜である。口径21.6cmを測る。内傾して立ち上がる口縁部直下に短い鍔が巡る。全体をナデで仕上げる。胎土が密で焼成も良く、内外面が黄灰色を呈す。30は瓦質の羽釜である。口径18.0cmを測る。わずかに内湾する口縁部の外面がヨコナデにより丸く段が付き、端部を平坦に仕上げる。段の下方に短い鍔が巡る。胎土が密で焼成も良く、内外面とも黄灰色～灰白色を呈す。31は瓦質の羽釜である。口径18.1cmを測る。内湾する口縁部の外面がヨコナデにより丸く段が付き、端部を平坦に仕上げる。段の下方に短い鍔が巡る。胎土は密で焼成も良く、内面が灰色、外面は灰黄色を呈す。32は瓦質の羽釜である。口径32.4cmを測る。内傾する口縁端部は強いヨコナデにより外面に段が付き、端面の中央はわずかに窪む。口縁端部から6.5cm下に鍔が巡る。胎土が密で焼成は良好である。33は瓦質の羽釜である。口径28.1cmを測る。わずかに内傾する口縁部の内外面をヨコナデし、外面の上半に緩やかな段が付き、端部を内側に肥厚させる。口縁部内面に工具による横方向のハケ目が残る。胎土に石英・長石・雲母を含み、焼成が良く、外面は暗灰色、内面が黒灰色を呈す。34は須恵器の練り鉢の口縁部である。口径23.5cmを測る。口縁端部を上方に引き上げ丸くおさめる。胎土はやや粗く焼成も良く口縁端部外面が暗灰色、それ以外が灰色を呈す。包含層から出土した。35は須恵器杯の底部である。底径9.0cmを測る。底部に断面が方形の輪高台を貼り付ける。胎土は精良で焼成も良好であり、内外面とも黄灰色を呈す。２トレンチ南東壁断ち割りで出土した。36は須恵器杯の底部である。底径9.7cmを測る。底部に断面が逆台形の輪高台を貼り付ける。胎土は精良で焼成も良好であり、内外面とも灰白色を呈す。37は須恵器杯の底部である。底径12.3cmを測る。底部に断面が逆台形の輪高台を貼り付ける。胎土は精良で焼成も良好であり、内外面とも黄灰色を呈す。36・37は１トレンチの断ち割りで出土した。38はミニチュアカマドの上半部の一部である。集石１の西側の包含層より出土した。39は輸入銭の「至道開寳」（初鋳995年）である。集石１周辺の灰色土より出土した。出土遺物のうち土師器皿や瓦器椀、瓦質羽釜の特徴から13世紀後半～ 14世紀前半のものと推定される。断ち割りで出土した須恵器杯は８世紀末～９世紀前半のものと推定される。

５．まとめ

今回の調査で長岡京に関連した遺構は検出していないが、断ち割りなどでごく少量の８世紀末～９世紀前半の遺物が出土しているので、周辺には同時代の遺構が存在していたと推測される。

今回の調査では右京第997次調査のＳＡ35に連なる柱穴を検出した（第９図）。東西方向の素掘り溝ＳＤ01より南側に遺構はなく、997次調査で検出された中世居館の南限の溝と推定される。



第９図　周辺調査地遺構配置図

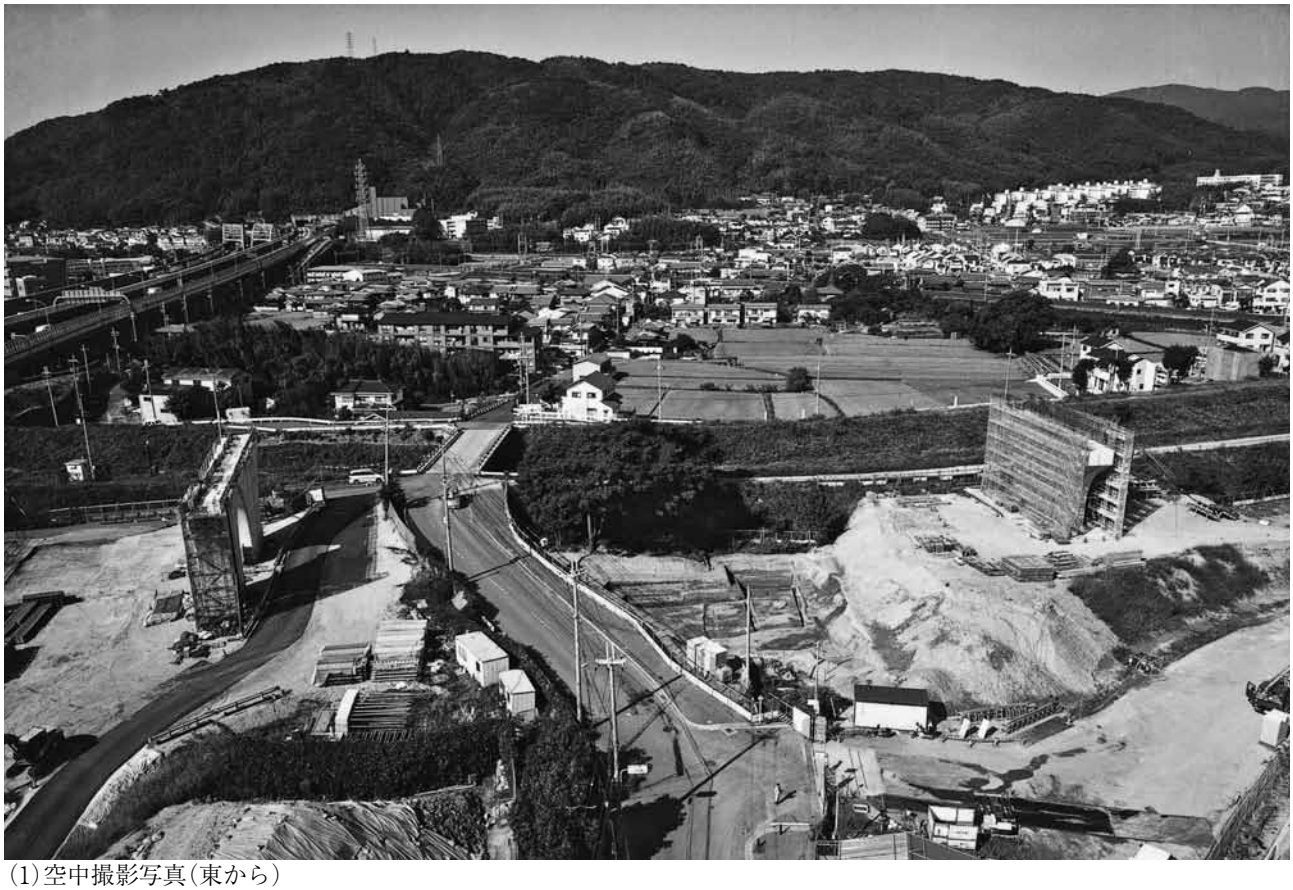
ちなみに中世居館の掘立柱建物跡・柵列の振れ角が北に８～15°で、今回検出したＳＤ01の振れ角がＥ９°Ｎであり、一連のものと判断される。

調査地はやや安定した北東部の砂礫層から西および南西方向に砂・砂質土が互層に堆積した流路堆積が広がり、２トレンチの断ち割り等から下層に古墳時代の竪穴式住居跡などの遺構が存在しないことを確認した。右京第971・974・1008次で住居跡が検出されているので、古墳時代の集落は今回調査地の東側及び南側に展開するものと考えられる。なお、古墳時代集落は下植野南遺跡に含まれるものである。　（石尾政信）

注１　古閑正浩ほか『松田遺跡』（『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』 第41集　大山崎町教育委員会）2011

注２　岡崎研一ほか「長岡京跡右京第997次・松田遺跡発掘調査報告」（『京都府遺跡調査報告集』第144冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2011

注３　中川和哉ほか「下植野南遺跡」（『京都府遺跡調査報告書』第25冊 （財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 1997

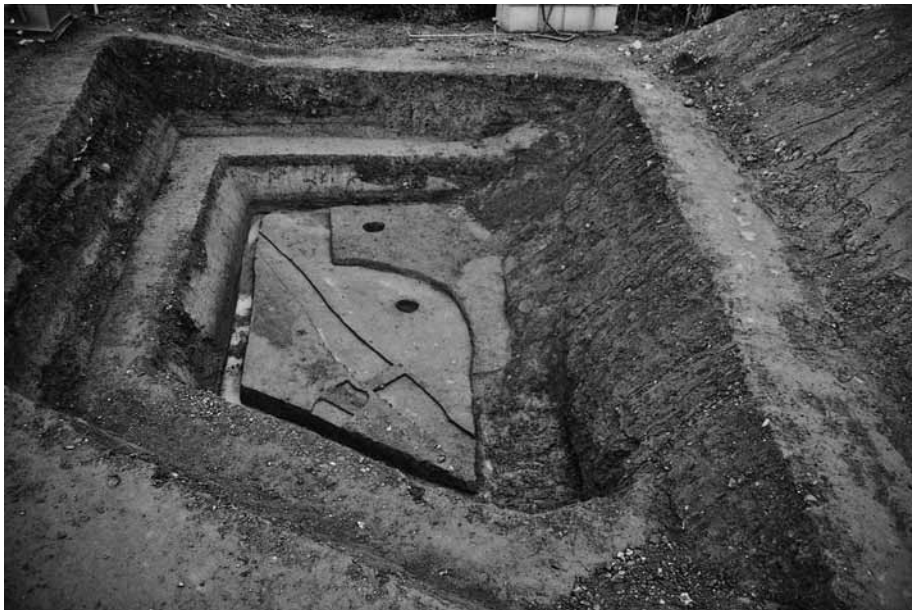


(1)空中撮影写真(東から)

(2)２トレンチ全景　空中撮影写真(南から)

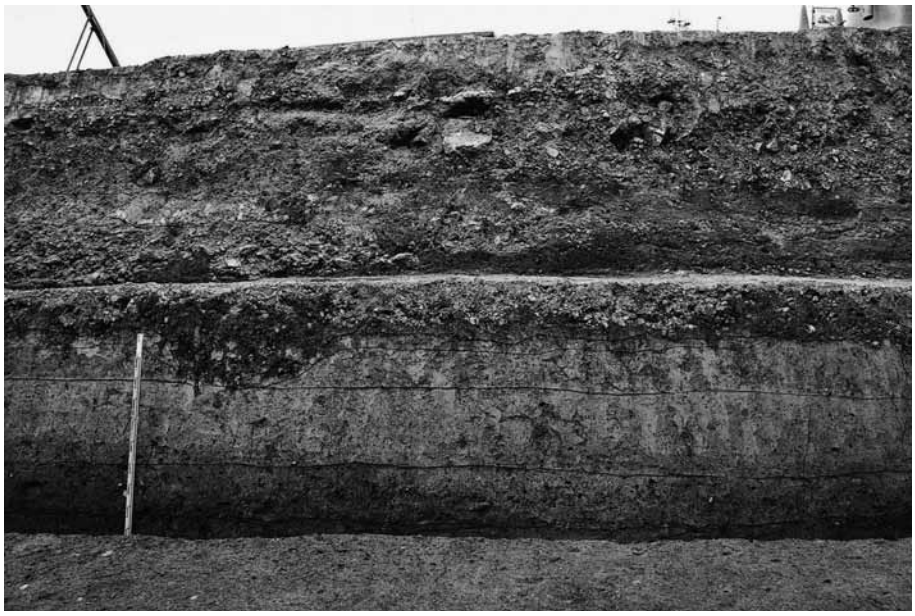
(1) 2 トレンチ空中撮影写真(東から)

(2) 2 トレンチ空中撮影写真(北から)



(1) 1 トレンチ全景(北から)

(2) 1 トレンチ全景(西から)



(3) 1 トレンチ東壁断面(西から)

(1) 2 トレンチ全景(北から)

(2) 2 トレンチ集石 1 (西から)

(3) 2 トレンチ集石 1 北隣
土器出土状況(西から)

(1) 2 トレンチ溝ＳＤ01（西から）

(2) 2 トレンチ溝ＳＤ01（東から）

(3) 2 トレンチ溝ＳＤ01アゼ断面
（東から）

(1) 2 トレンチ西部完掘状況
（北から）

(2) 2 トレンチ東部柱穴群（北から）

(3) 2 トレンチ中央断面（北から）

11

11

22

23

11

2

4

5

6

15

18

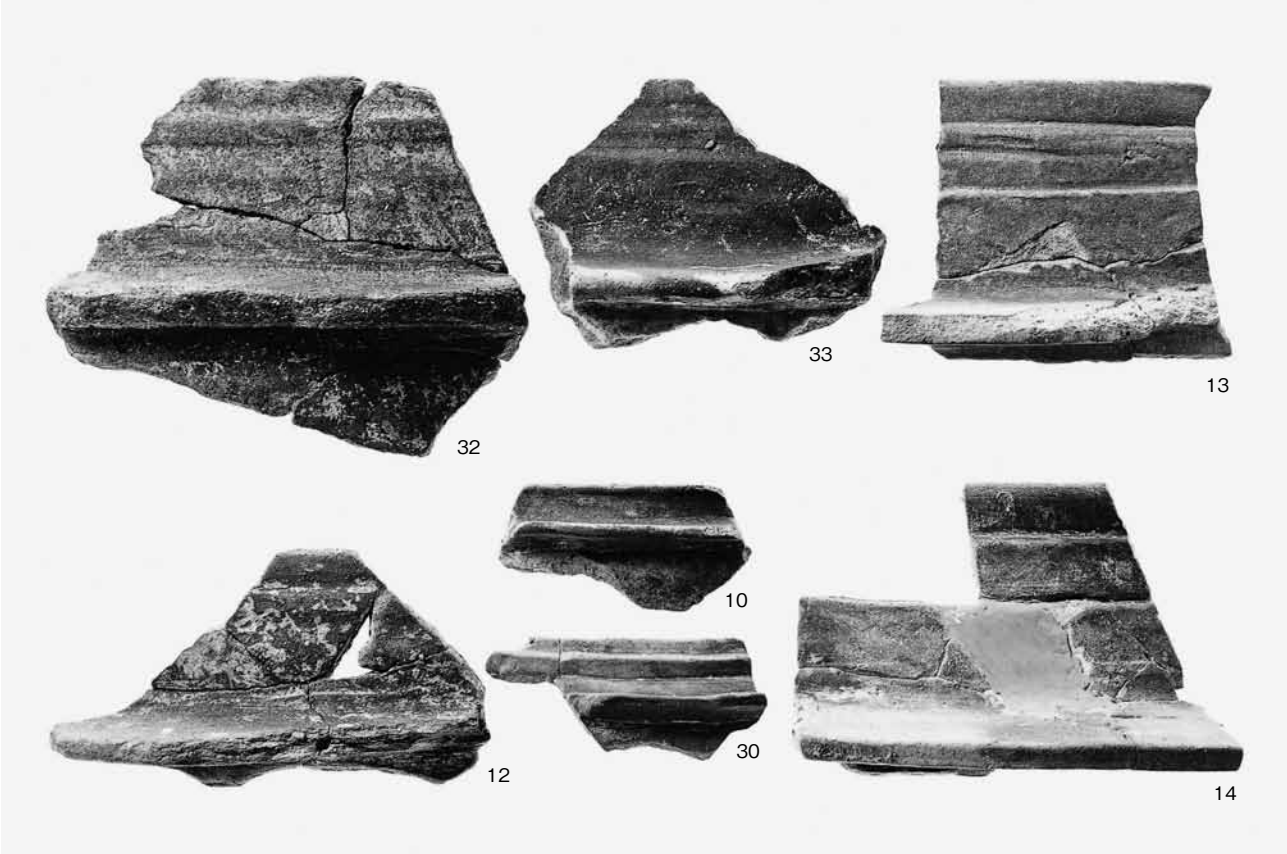
19

7

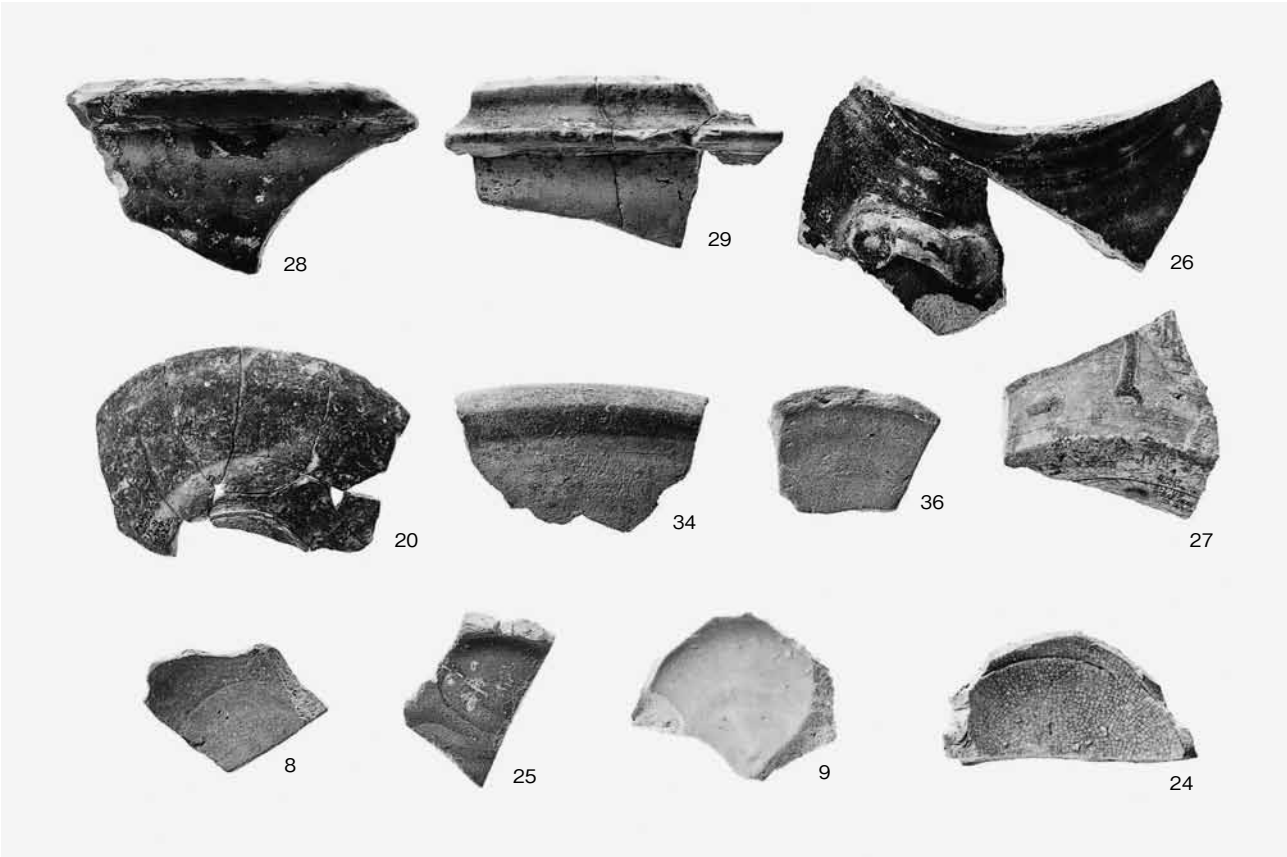
17

18

出土遺物 1



(1)出土遺物 2



(2)出土遺物 3

京都府遺跡調査報告集 第149冊

平成24年３月31日

発行　公益財団法人
京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002　向日市寺戸町南垣内40番の３
Tel (075)933-3877(代)　Fax (075)922-1189
http://www.kyotofu-maibun.or.jp

印刷　三 星 商 事 印 刷 株 式 会 社
〒604-0093　京都市中京区新町通竹屋町下ル
Tel (075)256-0961(代)　Fax (075)231-7141